

皆さん、おはようございます。

入学早々、学習合宿です。まだふわふわした気持ちが残っているかもしれませんが、ここでしっかり気持ちのけじめをつけましょう。

場所・建物、さまざまの講義、特進の仲間との宿泊、この恵まれた環境を十分に生かして、中身の濃い合宿にしてください。

勉強が楽しいと思える高校生になる第一歩を踏み出してください。

いきなりですが、このプリントの右半分を読んでみましょう。

今西祐行さんの「一つの花」です。

思い出せます？ 小学4年の教科書に載っていた作品です。

左半分の下に「再読視点」とあります。③までありますが、①と②だけを頭に置いて読んでください。

① 「第一場面・第二場面のゆみ子は、何がほしかったのでしょうか？」

「ご飯のときでも、おやつのときでも、もっと、もっとと言って、いくらでもほしがりました」や「一つだけちょうだい。おじぎり一つだけちょうだい」とありますから、食べ物にほしかったことははっきりしています。でも、それだけかな？

第二場面の最後に「ゆみ子は、お父さんに花をもらおうと、キャッキョッと、足をばたつかせて喜びました」とあります。食べ物でないのに喜んだのですね。さあ、ゆみ子は何を求めていたと考えられるでしょう？

手が挙がります？ おっ、早いですね。

—そう。食べ物も含めて何であれ、親が与えてくれるもの。何かを与えてくれる親のやさしさ。親の愛情。親という存在？ たった一つの「正解」に限定するよりも、いろいろな言葉で、言えそうな可能性を幅広く考えられる方がいいですよ。

② 「第一場面・第二場面のゆみ子は、母をどう呼んでいたのでしょうか？」

—そう、本文中には書かれていません。でも、ここはズバリの考えがあってもいいかな？ じゃあ、隣の人と話し合ってみて。(間)「お母ちゃん」と書いた人、どこを根拠にしてどう考えたのか、説明してください。(略)

③ は、「正解」なし、です。どんな考え方が想定されるかな？

三つの問いのどれも、小学校ではやらなかったのではないかな？ 実は、このプリントは大学で国語教師を目指す学生のための講義で使ったものですが、皆さんは、もう十分に考えられました。頼もしい！ 小学生の時に気づけなかったことが分かってみると、面白いと感じ